

TSURUOKA ROTARY CLUB

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

平成 20 年 4 月 15 日 (火) 第 2405 回 (本年度第 37 回) 例会

●創立 昭和34年 6 月 9 日 ●例会日 毎週火曜日(12:30~13:30) ●例会場 東京第一ホテル鶴岡 鶴岡市錦町2-10



ROTARY SHARES
ロータリーは分かちあいの心



例会に出席し
友情を深めよう

本日の卓話 (4/15)

ゲストスピーチ

鶴岡市長 富塚陽一氏

4 月 8 日 (第 2404 回) 例会報告

点 鐘

ロータリーソング「我らの生業」

卓 話: 会員スピーチ「草木塔を建てよう」

バスト会長・第 2 ブロック PAG 塚原初男君

ビジター: なし

会長報告

先週は会長関係で報告すべきことは特にありませんでした。来年の 50 周年記念の記念事業に際しては、各委員会や小委員会より計画書をいただいております。各委員長さん並びに委員の皆様ありがとうございました。目下これをたたき台にして事業の全体像を検討させていただいております。

◆会長ショートスピーチ

ところで、我が国のたばこをのむ方の成人人口に占める割合は男性 40%、女性 12% で平均約 30% と言われています。決してマイナーな数ではありません。この方々に色々な名目の税が加わって、合計の税率が 60% 以上になる高価な煙草をせっせと吸っては国家・地方財政に年間合計 2 兆円以上という少なからぬ貢献をなしています。にも関わらず、たばこをのむこと(喫煙)は、さまざまな健康被害をもたらす下手人として、差別と迫害を受け、喫煙者は少しずつ数を減らしております。

喫煙による健康被害としては、喫煙は日本では死因の第一にある悪性新生物の中でも、男性ではナンバー 1 の肺がんの原因の一つとみなされています。また喫煙は慢性閉塞性肺疾患と呼ばれる肺の病気の主な原因とされています。慢性閉塞性肺疾患とは肺組織が破壊され咳や痰や息切れを伴う病気で、現在

次回の卓話 (4/23)

観桜家族例会

日本では死因の 10 位とか 11 位に甘んじておりますが、世界のレベルでは死因の 4 位にある肺の病気です。慢性閉塞性肺疾患は死因としては 10 位でも、死因の第 4 位の肺炎の大きな原因となります。あれやこれやで、英国のある研究論文によりますと、たばこをのまれる方は、のまない方より 10 年若死にするそうです。同じ論文では、たばこをのまれる方の死因の半分はたばこが原因だとも言っています。と脅かされても、たばこはなかなかやめられません。

私の知っている肺がんを研究していたある教授は、ご自身がヘビースモーカーであったこともあり、常日頃「私はたばこをいくら吸っても、肺がんにならない研究をしているんだ」とおっしゃっていましたが、定年までに成功したというお話は聞いておりません。やはり煙草による健康被害を気にする方は、たばこをやめられるのが一番のようです。しかし、これがなかなかできないのが現実です。いろいろな禁煙法が世の中に出まして、私も何度か試みましたが、未だ成功していません。もっとも私自身はたばこは苦手で吸っていないので、もっぱら禁煙のお手伝いをする立場ですので、喫煙に対する愛情が足りないせいだろうと反省しております。この地方にも禁煙に熱心に取り組まれておられる先生方が何人かいらっしゃいます。我と思わん方はぜひこのような先生方の門をたたかれ、禁煙に挑戦されることをお勧めいたします。

幹事報告

- GE 事務所 地区協に信任状をお持ちください。
- 社名変更 NEC セミコンダクターズ山形(株)
(旧: 山形日本電気株式会社)

会 長 真 島 吉 也
副会長 富 樫 松 夫
幹 事 本 間 昭 吉

会報委員会
事 務 局

青柳孝治 佐々木喆彦
鶴岡市馬場町11-63 産業会館 3 階
TEL:0235-28-3375 FAX:0235-28-3376

卓 話

草木塔を建てよう

バスト会長・第2ブロックPAG 塚 原 初 男 君

草木塔は、1780（安永9）年に米沢市田沢地区塩路平に建立された石塔「草木供養塔」から端を発する。当時の藩主上杉家の江戸屋敷が大火に遇い、その復興のために御林と呼ばれる上杉家の森林が伐採され、地元の田沢地区の人々は、丸太材生産、木落とし（山から川に丸太を落とし入れる作業）、木流し（丸太を筏組みにして下流へ運ぶ作業）と木場町までの全作業に従事。いずれも命に関わる危険な作業であった。そこで田沢地区の人々は、作業の安全を祈り、古くから世話になってきた草木に対する思いを石塔に込めたと推測されている。このように草木塔を建立した先人の意図は、山の恩恵に感謝し、伐採された樹木の魂を供養し、鎮魂し、作業の安全を祈願することに由来するとされている。

草木塔の建立地域は、約9割弱の147基が山形県に集中分布し、更に山形県の約7割弱の98基が小国町を除く最上川上流域の置賜7市町村内（元上杉藩内）に集中分布するという特徴がある。小国町には古い時代も今も草木が有り余るほどあふれている。そのため当時の人々には、わざわざ石塔を建てるほどの強い感謝の気持ちが湧いて来なかったのかもしれない。庄内地方にも「草木塔」は7基あるとされている。

碑文には、塩路平の石塔をはじめ古くからの「草木供養塔」が全国の約3割を占め稀ではないが、「草木塔」が全国の約6割強もの圧倒的多数を占める。同じ草木塔にも稀に「草木野菜塔」、「草樹塔」、「蔵王草木塔」がある。その他稀に「草木国土悉皆成仏」、「山神惣木供養塔」がある。天保の大飢饉に多くの人々の命を教ってくれた「かてもの」をはじめ、長い冬の保存食となり雪融け直後の緑色食料となる山菜、絹糸を吐き出す蚕を育てる桑の葉、糸や織物の繊維となる麻やアカソやぜんまい綿やシナノキ内皮、暗い夜を照らす松脂、屋根葺き用や雪囲い用の萱（ススキ）、草木染め用の植物類、薬草薬樹、建築材用の大木、薪炭材用の雑木など自然産物としての草木類は多様である。これに野菜類や5穀、10穀類を加えた草木は、往時から今もなお人々の命と生活を支える自然の恵みである。

草木塔は今日的な「人が自然と共生しようとする心」を培うための記念碑であり、世代を繋ぐメッセー



ジであり、教材としても活用出来る。

人が共生しようとしている自然は、今、瀕死の危険状態にあると言われている。これまでの過度の化石エネルギー偏重型の生活様式を如何にして改めるか。今後、山野の草木、鳥獣、昆虫、きのこは勿論のこと、これら自然の動物、植物、微生物を育ててくれる自然環境、すなわち「山水気」の変動にも注視し、「山水気草木」との共生方法を如何にして再発見し、再認識して共生出来るか否かは、自分たち地域住民ばかりでなく、広く地球上の人類全ての人々の生存に関わる重要な課題となっている。

沖庭小学校校庭への「山水気草木塔（仮称）」の石塔建立計画を立ち上げる予定である。

委員会報告

地区米山委員会

地区委員会があり、①奨学生の現地採用拡大 ②帰国して、本国発展に頑張る気概を持って欲しいの二点を要望してきた。また、米山への寄付を今年もお願いします。（加藤功 2800 地区委員より）

親睦委員会

●スマイル●

真島 吉也君 塚原 初男君 佐藤 孝子君
本間喜美子君

出席委員会

●出席報告 (3/4)●

会 員 数	出 席	出 席 率	前々回 確定出席率
46 名	29 名	67.44%	72.09%

●メイクアップされた方

藤川 享胤君 佐々木喆彦君 秦 幸助君
桜井 隆君 迎田 健君 庄司 清君
嶺岸 禮三君

●年間皆出席

6 年：加藤 功君 3 年：秦 幸助君・本間昭吉君
1 年：青柳孝治君

1 月 100%以上出席者

250%以上：藤川享胤君 200%：佐藤孝子君
175%：真島吉也君・佐藤友行君
150%：樋渡美智子君・加藤 賢君・越智茂昭君
125%：檜野隆博君・加藤恒介君・斎藤 昭君
富樫松夫君・若生恒吉君

100%：阿部純次君・庄司 清君・本間昭吉君
本間喜美子君・秦 幸助君・嶺岸禮三君
桜井 隆君・佐々木喆彦君・青柳孝治君
上野欣一君・石田 雄君・富田喜美子君
加藤 功君・北川米三君・丸山隆志君
御橋義諦君・塚原初男君